

9月議会 一般質問

- ①持続可能な地域農業とソーラーシェアリングについて
- ②津波警報時の市の対応について質問しました！



当日の動画は
こちらから



1 持続可能な地域農業とソーラーシェアリングについて

「持続可能な地域農業」をテーマに、農村型地域運営組織（農村RMO）の可能性について取り上げました。RMOとは、旧小学校区程度のエリアで住民が主体となり、行政だけでは担いきれない地域課題の解決を図る仕組みです。全国にはすでに8,000以上のRMOが存在しますが、農村部ではまだ少なく、国が重点支援を進めています。

館山市においても中山間地域を中心に農村RMOの対象となる地域があり、農業の高齢化や担い手不足など、単体では解決が難しい課題が顕在化しています。だからこそ、地域全体で農業を支える体制づくりが必要だと考え、行政による支援と住民参加型の協議の場の整備を求めました。

本市では昨年度「地域計画（地域農業経営基盤強化促進計画）」が策定されましたが、10年後の農地利用の目標地図が現在と変わらない内容と

なっていることには驚きました。現実には離農がさらに進むと見込まれ、計画内容の実効性を問いました。市の説明では今後随時更新していくようですが、そのためにも農村RMOのような仕組みは重要との見解を共有しました。

その上で、持続可能な農地利用の一手として「ソーラーシェアリング」を提案しました。農地を維持しながら上部空間で発電を行うもので、農業収入の安定化や電力の地産地消、防災インフラとしての活用など、多面的効果が期待できます。RMOと組み合わせることで、地域主導のエネルギー事業としても大きな可能性があると考えています。今後、実証導入に向けた検討をさらに進めていきたいと思っています。

2 津波警報時の市の対応について

今年7月30日の津波警報を受けた市の初動対応を検証しました。避難所開設や情報発信に一定の評価はできつつも、避難ルートの渋滞、一時避難場所の暑さ対策、体育館に冷房がないことなど、改善すべき課題が浮き彫りとなりました。

市として大きな前進と感じたのは「地区防災計画」を策定する方針が示されたことです。住民が避難経路や対応手順を把握し、地域ごとに最適な対策を整えるこの取り組みは、災害時の実効性を高めると期待されます。

さらに「渚の駅」たてやま

に設置されたライブカメラの防災活用についても提案しました。市役所からの遠隔操作により津波状況や河川情報をリアルタイムに配信できることがわかり、住民の判断材料を増やし、危険行動の抑止にもつながると思います。

津波災害では、自ら命を守る行動が最も重要です。地域が主体となり、日頃から備える体制を作ることが、安心して暮らせるまちづくりに直結します。今後も現場の声に寄り添いながら、改善につなげてまいります。



今年初めて開催したナイトマーケット

10周年にフィナーレ

事務局を務める「北条海岸ビーチマーケット」が今年10周年を迎え、4月から毎月開催をしてきました（最終回11月は強風のため中止）。夏はナイトマーケットにも挑戦し、海岸線の新しい魅力も発見できた有意義な一年でした。

私も館山湾の美しさに導かれて移住した一人ですが、まだまだ知らない人も多いです。イベントとしても微力ながらその認知向上と観光誘客、交流の場作りを行っていかれたらと思います。